第４回　和東町総合保健福祉施設建設委員会

＜会　議　録＞

日　　時　：　令和５年１０月２６日（木）午後８時００分～午後９時１５分

場　　所　：　和東町商工会館　研修室

出席委員　：　宗　田　好　史〔委員長〕　京都府立大学名誉教授・関西国際大学教授

岡　田　　勇　和東町議会 議会運営委員長

畑　　武　志　和東町議会 総務厚生常任委員長

柳　澤　　衛　相楽医師会和東町班　班長

島　川　昌　代　和東町国民健康保険診療所事務長【牛込委員代理】

東　　壽　亮　和東町社会福祉協議会長

木　﨑　富喜子　和東町民生児童委員協議会 副会長

岡　田　好　子　和東町身体障害者協議会 副会長

岡　田　芳　明　社会福祉法人 和楽会 評議員

欠席委員　：　細　川　暢　子　京都府山城南保健所長

小　寺　睦　男　京都府山城南土木事務所 技術次長

飯　田　喜　夫　和東町老人クラブ連合会 副会長

事 務 局　：　総合施設整備課　（但馬課長・田中主任・瀧村主任・中嶋）

工事請負者：　（株）巖 建設　（中島現場事務所長・営業部 山形氏）

傍 聴 者　：　なし

〔会議内容〕

１．馬場町長あいさつ

会議に先立ち、馬場町長からあいさつ。

２．宗田委員長あいさつ

会議開催にあたり、宗田委員長からあいさつ。

３．委員紹介

委員全員を事務局より紹介。

４．議　　事

（１）副委員長の選任について

副委員長の岡田泰正氏が令和５年７月２７日付けで和束町議会議員を辞職されたことに伴い副委員長が欠員となり、後任の副委員長を選任する必要があるため、委員の互選により岡田勇委員を副委員長に選任した。

（２）総合保健福祉施設の概要について

下記資料をもとに、事務局より説明。

資料２　和束町総合保健福祉施設概要

＜質疑（要旨）＞

委　員　：施設に求められる機能について、国民健康保険診療所部門の居宅介護支援事業所と、社会福祉協議会部門の在宅看護支援センターが新しい取り組みだと思ったが、合っているか。

事務局　：社会福祉協議会の在宅看護支援センターについては、資料の誤字である。正しくは在宅介護支援センターであるので、修正願いたい。

委　員　：診療所で新たな取り組みをするわけではないのか。

事務局　：現行の機能を引き継ぎ、社会福祉協議会には在宅介護支援センターの機能を備える。診療所の居宅介護支援事業所は現状休止中だが、基本構想や基本計画策定時に議論いただいたように、今後スタッフの確保等ができれば再開していくため、機能を残しているところである。

委　員　：診療所に居宅介護支援事業所を計画するのか。

委　員　：現状、診療所に居宅介護支援事業所はあるが休止状態である。

委　員　：居宅介護支援事業所は社会福祉協議会にはないのか。

事務局　：現在、町内における居宅介護支援事業は社会福祉協議会と和楽会で実施されている。

委員長　：段々と高齢者の数が減っていく中でどのように統合していくのか、また、介護分野の人手不足が深刻であるので合理化することも考えなくてはならない。

委　員　：社会福祉協議会の訪問介護員は何人おられるのか。

委　員　：合計で 9、10 名程度である。

委　員　：問題は平均年齢で、補充ができなくなったのが笠置町であり、なくなってしまった。人材不足が一番の問題だと思う。

委員長　：今度、日本医業経営コンサルタント協会の大会で基調講演するが、定年延長を 75 歳まで伸ばすなど、できるだけ長く働いてもらおうという話が出ている。

委　員　：健康寿命を延ばすことが重要であるので、このようなワンストップ施設ができた後、施設を動かす人をどうするのかについては行政の問題だと思う。

委　員　：訪問介護のヘルパーは初任者研修を受けなければいけないが、ヘルパーの養成はやっていくのか。

事務局　：相楽東部 3 町村の社会福祉協議会が連携して人材確保に取り組んでおり、養成講座等も実施しているところである。資格取得についての公費負担も検討している。

高齢化が進んでいるが、新施設建設を契機として、安心して暮らせるまちづくりを進めていく。

委員長　：初任者研修については、東部 3 町村だけでなく相楽郡全体において高齢化が進む中、中年女性の就業が増えているので、広域事務組合などを活用して、そういった女性層に積極的に来てもらうような取り組みをしてもいいかもしれない。場合によっては通勤手段の確保もできるので、広域的な協力体制が必要である。木津川市にも言っておく。

委　員　：ホームヘルパーについて、社会福祉協議会で年に 2、3 回募集しているが、あまり反応がない状況である。先ほどの東部 3 町村の研修を受けて来ていただいている方もいる。

委　員　：最近、コロナ禍もあって隣近所やボランティアの交流の機会が減った。飲んだり食べたりする親睦の部分が減っているので、50 代、60 代の方が入らなくなってきている。ふれあいサロンについても、参加者が 80 代以上でボランティアも 80 歳近くであり、その下の世代が来ないのが課題だと感じる。

委員長　：和束町では 50 代、60 代の現役世代最後の組織は何があるのか。

委　員　：婦人会もなくなり、最近は組織が減ってきている。

委員長　：男性はPTAがあるが、その後、自治会の役員や民生児童委員をやるまでの間の役職がないのか。

委　員　：ないということはないが、自治会の役員の年齢層もだんだん上がってきているように感じる。

委員長　：昭和22年、23年生まれの世代が団塊世代で、昭和30年代生まれは減り、その次の団塊ジュニアで増えるように、年齢層により偏りがある。団塊世代の最後の方が自治会の役員をして地域を支えているようなことは全国で起きている。

委　員　：加えて定年延長があったので、そのようなことになっている。

委員長　：今回このような施設ができるので、50代、60代の町民が集まって交流する機会を作っていただくといいかもしれない。例えば、子供を中心にしたイベントなど。

委　員　：おそらく消防団で繋がっていたが、それが壊滅状態になっていると思う。女性は婦人会がなくなり、農業は営農組合がなくなりかけていて、町内の組織が壊滅的である。原因は、その年代がいなくなったことと、外に働きに出ている方が普段から顔を出さないからである。また、茶業については繁忙期以外には時間があるが、活動をする人としない人に分かれている印象である。

委　員　：最初の設計の段階では縁側づくりというイメージだったが、イマということなのか。

事務局　：交流のイマ、暮らしのイマという表記にはなっている。建屋の周りに縁側のような木質のテラスがある。

委　員　：京都市のココン烏丸の横に縁側スペースがあるので、それの模倣であっただけかと思った。

委員長　：最初のプロポーザルでは縁側の提案があったが、ずっと反響が良く無かった。茶畑を見ながら縁側のようなところで日を浴びつつお茶を楽しむ場所があっていいという発想であった。

委　員　：茶畑を毎日見ているので、地元には受けないだろう。茶畑は他から来た人は感激されるが、地元の人はすごいことだと思っていない。

委　員　：先ほど東部３町村の話があったが、笠置町と南山城村が独断で勝手にゴミ処理を伊賀上野でしてもらうという新聞報道があったので、議会側としては３町村の体制をやめようという話になっている。

委　員　：仲良くしたらいいではないか。東部が分裂していいことはない。木津川市も見向いてくれないし、ヘルパー養成事業など町独自でもできないことがある。東部がけんかをしていたら、京都府も手を出しにくいこともある。

委　員　：東部３町村でまとまらなくても、井手町や宇治田原町など政治的政策は出ていける。

委員長　：けんかをするだけ余裕があるということだろう。

（３）総合保健福祉施設建設工事について

下記資料をもとに、㈱巖 建設　中島所長及び山形氏より説明。

資料３　　和束町総合保健福祉施設建設工事について

資料３別紙　和束町総合保健福祉施設工事工程表

＜質疑（要旨）＞

委　員　：工事車両搬出ルートについてだが、北側出入口から最初の交差点と次の交差点が、接触事故の割合が高いところなので、ガードマンを付けていただきたい。

巖建設　：承知した。

委員長　：毎日コンスタントに工事車両が通るわけではないので、集中する期間だけ特に注意いただければと思う。あと、工事現場での事故も注意いただきたい。

委　員　：最近働き方改革がよく言われるが、土曜日も工事をするのか。

巖建設　：一応書かせていただいているが、工程を見ながら原則土曜日は積極的に休んでいこうと思う。天候等の都合もあり土曜日もすることがあるかもしれないので、書かせていただいている。

委　員　：工事現場の航空写真で、現場事務所の横のカラーコーンで囲んであるものは何か。

巖建設　：廃棄されている井戸の跡が出てきて、地中障害物撤去をした跡である。

事務局　：水道施設の水源が 2 箇所あり、そのうちの 1 箇所が出てきた。

巖建設　：コンクリートの桝があり、鉄管が 30 メートルほど埋まっていた。設計事務所にも水圧等問題ないことを確認しており、現状は埋めている。

５．　その他

（１）第５回建設委員会について

事務局　：　来年 2 月もしくは 3 月の開催を予定している。日程等は委員長と調整し、開催日が決定次第、速やかに連絡差し上げる。

６．閉　会

会議閉会に当たり岡田副委員長からあいさつ。